

ようこそ！「絵本」の世界へ



子どもたちに夢を与える絵本。現実にはありえないメルヘンの世界や冒険ストーリーで、子どもたちをその世界に引き込みます。

幼いときから絵本を読んでもらうことは想像力を豊かにしたり、文字に親しんだりするとされ、子どもの成長にたいへんよいと言われています。また、何よりよいのは、読み聞かせにより読み手と子どもの絆が深まることではないでしょうか？

最近では、大人向けの絵本も注目され、子どもだけでなく大人にも夢を与えています。

ときには大人だって入り込んで行く「絵本の世界」。ぜひお子さんやお孫さんに絵本を読んであげてください。幼いときに絵本を読んでもらったことは、子どもの心に宝物としてきつといつまでも残るでしょう。

「絵本の魅力」について考えてみるよ…

絵本のスタートが六カ月。早くない？

読書は教育？読書は楽しいこと！

「読み聞かせ」って面倒だな。でも…



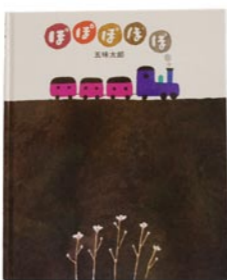
なかなか楽しい。絵本には、現実世界では起こらないことが満載。ハラハラドキドキ、読んでいて楽しくなるのは間違いありません。

登場人物だつてユーク。しゃべる動物にちよつと怖いおぼけ、ときには木や家だつて「人物」として現れます。一見ありえない登場人物は、ありとあらゆるものに生命があることを意味しています。そして、現実とはかけ離れた世界で起こる物語も、どこか現実味があります。

単純明快に思える絵本には、子どもたちに向けられたさまざまなメッセージが込められています。絵本は奥が深く、読み終わると心が温まるのではないのでしょうか。



市では六カ月児健診のときに「ブックスタート」の一環として絵本の読み聞かせやその説明、おすすめの絵本の紹介などを実施しています。



小さいころから絵本を読んでいると、「読書の習慣が身につく」「想像力が豊かになる」「知識や知恵が豊富に取得できて豊かな感性が育成される」など、たくさんよいところがあると考えられています。

六カ月になると視力や聴力などが発達してきて、いろいろなことに興味があき始める時期です。絵本の内容はわからなくても、読んでいる親の表情や声の強弱が伝わります。この「ふれあい」こそが大切で、最適な時期の六カ月児健診で案内しています。

(*) ブックスタート…赤ちゃんと保護者がいっしょに本を読む習慣を身に付けようと絵本を手渡す運動



しかし注目してほしいのは、ズバリ「親子（家族）のコミュニケーション」です。決して教育だからと思わず、子どもが楽しんでお父さんお母さんのペースでじっくりと話してあげれば、親子の絆は深まることでしょう。

絵本の読み聞かせにはどうしてもお父さんやお母さんの手がかかります。その点、テレビを見せておけば親の自由な時間をとることができます。

しかし、テレビはどうしても一方通行です。忙しいのはわかりますが、かわい我が子のため、少し時間をとってみてください。

絵本には、大人も引きつける力があります。「子どものために読んでいるうち、忙しいことを忘れ絵本の世界に集中していた」ということになりましょう。こうした読み聞かせが、お父さんお母さんのストレス解消にもなるのではないのでしょうか？

絵本は侮れませんよ。



まだまだある絵本の魅力…細かい物語がいっぱい！物語や文章とはまったく関係ない背景の中にも細かい物語、描写が満載。何度も読んでみると子どもの方が先に気づきます

**「無料」なんだから
図書館を利用しよう**

何ととっても図書館で本を借りるのは無料です。自由に借りることができ、図書館ですら、ほとんど利用していただき。

たくさん借りて子どもに読んであげる。ときには興味を示してくれない絵本があるかもしれないが、全然問題はありません。いろいろな絵本を読んであげてください。もし、お気に入りの絵本に出会えたそのときは、本屋さんで買ってプレゼントしてあげてください。きつと読んで読んで何度かその本を持ってくるでしょう。

幸い市内には図書館が市立と県立（若狭図書館学習センター）の二館あります。とことん借りて子ども思いを出を残す。きつと図書館の絵本も本棚で眠っているより、子どもの笑顔が見たいはずですよ。

**思い出の一冊を
覚えていきますか？**

市立図書館では、旧市立図書館からの古い絵本を大切に保管しています。もちろん、貸し出しも可能です。「昔、両親によく読んでもらったあの本。今度は我が子に読んであげたいな」と思ったら市立図書館へ。書名からでも著者名からでも検索できますので、気軽に相談してください。

絵本は子どもだけのものじゃない！

市立図書館の六階（大人用フロア）に絵本コーナーがあるのをご存じですか？そう、そこが大人用に選ばれた絵本なのです。といても特殊な絵本ではなく、内容が難しいものやデザイン性が高いものを選んで陳列されています。このコーナー、けっこう人気でたくさんの方が利用しているそうですよ。



ふくい みつる
福井 満 さん
(伏原)
● 2児の母

市立図書館でたくさん絵本を借りて読んでいます。最初は自分の読みたい本が借りられなかったのが嫌でしたが、今は絵本の世界にどっぷり浸かってますね。子どもと同じ目線で見て、話ができるのがすごくいいですね。リラックスして読むので、わたしの声も聞きやすいんだと思います。下の子がまだお腹の中にいるとき、上の子に絵本を読んでいるとよく胎動があったんですよ。母親の声がわかるというか、聞いてくれているんだなと充実感がありました。忙しくてなかなか時間が取れませんが、子どものためこれからもなるべくたくさんの絵本を読んであげたいですね。

お気に入り絵本 TOP 3



「かばくん」
中谷 千代子
福音館書店



「こんとあき」
林 明子
福音館書店



「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? (英語版)」
Eric Carle (エリックカール)
Henry Holt & Company
日本語版もあります



保育士
なかにし ともみの
中西 富美乃 さん
(田鳥保育園)

絵本を使って楽しみながら子育てしてほしいですね。絵本でキャッチボールができると思うんですよ。読み聞かせをすると子どもから「心が満足した」という笑顔が返ってきます。この笑顔は、子育ての楽しみのひとつですね。注意してほしいのは「最初は対象年齢より低い絵本を選ぶ」ことです。そして、根気よくたくさん読んで、その子が気に入る絵本に出会えるような環境づくりをすることが大切です。気に入る本が見つかればそこから広がりますね。もうひとつは「同じ目線で読む」こと。向かい合って読むより、膝の上に乗せて読んであげると一体感があっていいですよ。

お気に入り絵本 TOP 3



「とんことり」
林 明子
福音館書店



「やまこえのこえかわこえて」
こいで やすこ
福音館書店



「ぼちぼちいこか」
ロバート・グロスマン
偕成社



司書
あがさわら むさこ
小笠原 房子さん
(市立図書館)

よく図書館の児童室で耳にするのが「こんな難しい本は読めへんから返してきな」これ、この前も借りたやろ」といった保護者の言葉です。たくさんある図書の中からせつかく選んだ本ですから、子どもを尊重して借りてあげてほしいですね。例え読めなくても、借りることで子どもは満足し、次につながるんだと思います。市立図書館は、フロアが大人用と子ども用に分かれていますので、親子でゆっくりと選んでいただけます。また、絵本の選び方がわからない人は、司書に気軽に相談してください。年齢や季節にあった絵本を紹介しますよ。

お気に入り絵本 TOP 3



「あっちゃんあがつく」
さいとう しのぶ
リーブル



「おおきなきがほしい」
むらかみ つとむ
偕成社



「ぼくんちカレーライス」
つちだ のぶこ
株式会社 偕成出版

**絵本の読み聞かせ。
絵本の選び方出前講座**

「絵本の読み聞かせに来てほしい」という要望にお応えします。皆さんといっしょにする読み聞かせや絵本の選び方、図書館の上手な利用法などを案内します。
対象 5組以上の親子または子どもと保護者の属するグループ、団体
料金 無料
申し込み、問い合わせ
市立図書館 ☎ 52・1042

参加者募集

いっしょに読もう！

絵本の読み聞かせをして、その絵本に出てくる料理を作ります。
とき 9月26日④ 10時～
対象 年中児以上とその保護者 2人1組
読み聞かせ おばま児童文学会 風夢
申し込み、問い合わせ
御食国若狭おばま食文化館 ☎ 53・1000

市立図書館の今後を検討

市立図書館のあるつばき回廊業務棟は今年度売却予定ですが、当面の間、現状のまま開館します。この機会に同図書館の今後について検討するため、7月27日に「市立図書館あり方検討委員会」を設置しました。学識経験者や関係者など9人で構成する同委員会は、最初に事務局が現状などを報告し意見交換へ。各委員からは「閉鎖」という言葉は出ず、どのように存続していくかを中心に話し合われました。同委員会は、年度内の答申に向けあと2回程度開催する予定です。